

2019年度 緊急事態を想定した協力活動訓練

東海ノア協定に基づく2019年度の協力活動訓練は、第87回活動推進幹事会で承認された2019年度総合訓練計画に基づき、茨城県が実施する「令和元年度 原子力施設における事故・故障等発生時の通報連絡訓練」に連動して、通報連絡を主体とした東海ノア総合訓練を実施した。今回は、初回の訓練でFAX送信未達が発生したことから、改善を図り、その確認のための再訓練を実施した。

〔実施日〕 令和元年7月23日（火）

〔想定発災事業所・発災状況〕

三菱マテリアル株式会社 エネルギー事業センター 那珂エネルギー開発研究所 開発試験第Ⅱ棟2Fにおいて火災報知器が発報した。

〔訓練概要〕

三菱マテリアル株式会社 エネルギー事業センター 那珂エネルギー開発研究所（以下、「三菱マテリアル」という。）が、茨城県通報訓練で東海ノアへの協力要請を実施とのことから発災想定事業所となり通報訓練を主体とした訓練を実施した。

〔訓練実施結果〕

総合訓練は、三菱マテリアルからの協力要請を受けて開始された。原科研の第1回総合訓練と重なりFAX一斉同報送信の未達が発生し、東海ノア協定事務局がそれを確認できなかったため、加盟事業所からの指摘を受けて個別にFAX送信を行った。このように同報FAX送信に不備が発生したことから、改善策を講じ、その対策の有効性確認のため、加盟事業所の了承を得て再訓練を実施することとした。

FAXの送信状況確認不備の対策として、「同報FAX送信・確認手順書」を作成するとともに確認のためのテスト送信を行った。

〔再訓練実施日〕 令和元年8月21日（水）

〔再訓練想定発災事業所・発災状況〕

公益財団法人 核物質管理センター 東海保障措置センター

新分析棟において、室内ダストモニタが異常値を示し、警報が吹鳴した。

なお、当該室内では作業員が作業中であり、汚染・被ばくのおそれがある。

〔再訓練概要〕

公益財団法人 核物質管理センター 東海保障措置センター（以下、「核管センター」という。）が、茨城県通報訓練で東海ノアへの協力要請を実施とのことから発災想定事業所となり、東海地区に活動本部を設置、総合訓練を実施した。

核管センターから、9時28分に新分析棟スパイク調製室において、室内ダストモニタが異常値を示し、警報が吹鳴したとのことで、9時51分に東海ノア安全協力委員会委員長への協力要請の連絡を受けて開始した。

協力要請を全加盟事業所に連絡、東海地区協力活動本部員を東海地区活動本部に模擬出動、大洗地区活動本部員を二次招集として、総合訓練シナリオに基づき、通

報連絡を主体とした活動を実施、通報連絡記録票の提出をもって終了した。

〔再訓練実施結果〕

総合訓練は、核管センターからの協力要請を受けて開始され、総合訓練シナリオに基づき進められた。

茨城県通報訓練が主体であり、発災想定事業所からの通報連絡者への協力要請 F A X 及び電話連絡を受けて訓練を開始した。緊急事態協力活動要領に基づき 10 時 05 分に加盟全事業所への一斉同報 F A X の送信を開始し、送信完了確認後、電話連絡を行い、10 時 26 分に活動本部を設置した。また、11 時 37 分には加盟事業所からの出勤者名簿の受信が完了した。その後、茨城県の訓練が終了した発災事業所からの通報連絡記録票を受信し、通報連絡を主体とした東海ノア総合訓練を終了した。なお、今回の総合訓練には、出勤可能な活動本部要員（模擬出勤）として東海地区 64 名、大洗地区 49 名の合計 113 名と、その他加盟全事業所の緊急時連絡対応者が参加した。

再訓練では、通報連絡系統に基づく連絡が迅速に行われ、関係者への通報連絡及び活動本部要員の招集に問題ないことを確認した。